

記されしか、或はまた筆者の誤寫に出でしか、三者中その一なるべし。

(45) *tos* はラドロフ氏の方言集によれば Čagatai 語にて「系統」「家系」「家族」
die Abkunft, der Stamm, die Familie 等の意なり、*täng* は *täg* と同語なるべく、
 同氏の *Die alttürkischen Inschriften der Mongolei, S. 369* に *täg* を「種」「姓」、
 (das Geschlecht) と譯して、*täng* と比せよと註せられしも此等の兩語を同一と見ら
 れたる爲なるべし、されば兩語共に系統・種姓の意味にて同義の語と見るを得べし。
 されどまた *tuš* に「同等の價值」「友人」等の義あり、*täng* は普通「均等」の義な
 れば、かく解釋しても兩語は同意義にして、「互ひに同等のものを擇びて」の意と解
 し得ざるにも非ず、然も今は第一の解釋を施すを以て適當なりと信ず。

(46) *tüngür* (*töngür?*) *bišük* (別本に *büšük* と見ゆ) は「婚媾」の語に相當す
 るものなるべし、Teleut 語に *tüng* を「夫婦」といへるは (ラドロフ氏方言集)これ
 と關係ある語なるべし、*bišük* は今其の語義を知らざれども思ふに「媾」「親」等の
 意なるべし、第二百七十八行には此の二語を「婚親」に配せり。

(47) *bolušup* は *bol+š+p* にして「兩者互ひに調和する」をいふ、Shaw 氏の
Sketch of the Turki Language の單語集中に *to become (one) with one another*
 と解けるもの之れなり、今文義によりて「約し」と譯せり。

(48) *baqar bišük* も今語義を知らず、第二百七十行に *barir bišük* と記さるゝもの
 も、亦た此の語義に外ならず、或は *ba-* “結ぶ”より出でて、繫縁の意ならんか。

(49) *talula* はラドロフ氏の方言集によれば、*talula* にして *talula=trefflich* なれ
 ば *talula* は *gut machen, verbessern* なりと解けり、されど、此の語は常に漢語の
 「擇ぶ」に對して用ゆること本書第百八十一行、百八十三行、百八十四行に於て認む
 るが如くなれば *talula=trefflich* の意よりして「選擇」の義を有するに至りたるものな
 るべし。

(50) *ulay sabay* は各々 *ula* (*zusammensetzen, vereinigen*), *sab* (*ansetzen, einfädeln*)
 なる動詞より生じたるものにして、共に結合の意なり、而して此の意味より第二百八
 十二行に見るが如く、「相因る」の意に用ゐ、又た第三百二十四行に於るが如く、
 「因縁」の語にも對せしめたるものなり。

(51) 補注(3)を見よ。

(52) *törüsi* の次に動詞「信ず」の如き語が脱せるものなるべし。

(53) *xar* に「對する」(*gegen, wider*) の意ありて、これより *qariš* 即ち「争」の
 語を生ず、要するに兩者相對するを示す語なり、第三百二十六行及び第三百二十九行
 にては、前後の關係上交々と譯せり。

(54) *tsui* は漢語「罪」の音を寫せるものにして、之に回鶻語の性質形容詞を作る時
 に用ゐらるゝ添尾語を *lur* を加へて「罪ある」の意に用ゐたるものなり、此の語時と
 しては *sui* の音を以ても寫せるものあること、ラドロフ氏の *Kuan-ši-im Pusar, S.*